

# 高速交通網による 逆ストローク現象を起こすために

～ 東海北陸道開通、北陸新幹線開業後の活力あふれる富山へ ～

## 提 言

平成19年5月

富山経済同友会  
富山活性化委員会

## はじめに

中部地方を縦に貫く東海北陸自動車道が、本年度いよいよ全線開通する。さらには北陸地方にとって長年の悲願であった北陸新幹線が、7年後、平成26年度の金沢開業を目指し、沿線各所では連日、槌音がこだましている。環日本海へと目を転じれば、北東アジア諸国の躍進を受けて、伏木富山港の外貿コンテナ取扱は年々爆発的に増加しており、富山空港からは同諸国へと大勢の人々が往来している。

来るべき2つの高速交通網の完成によって、富山県はまさに国内外の物流の結節点になろうとしている。だがその一方で、高速交通網がもたらす「ストローク現象」による購買力流出など、地域経済の地盤沈下も深刻に懸念される。

本提言では、交通の要衝地、物流の結節点となる富山県において、逆ストローク現象を起こし、本県産業のいっそうの飛躍をはかる方策について提案したい。総花的ではなく、屈指の工業立県としての強みをさらに伸ばすことと、その波及効果への期待に絞って提言する。

逼迫する国・地方自治体の財政状況や様々な法的規制などの制約下において、容易ならざる項目もあるかもしれないが、いずれも地域活性化のために官民が総力を挙げて取り組めば必ず解決できる課題であり、本提言が一助となれば幸いである。

郷土の偉大な先人達は、美しくも厳しい自然環境のなかで、薬業を興し、鋳物の炉を熱くたぎらせ、そして北前船の帆を揚々と掲げて、遙か蝦夷から薩摩に至るまで、たくましく交易のみちを駆けてきた。蓄えた財と技術力は、電源開発に端を発する産業基盤の創出と高等教育へ惜しみなく投じられ、現在の日本海側屈指の工業集積に至る、ものづくり県としての風土が連綿と受け継がれてきている。

いま、交通網の結節という新時代の交流がもたらされる絶好の機会をとらえ、先人達が築き上げた産業をより躍進させるとともに、美しい郷土へ国内外から多くの定住者と来訪者が行き来するような、活力溢れる富山県を目指していこうではないか。

## ・ストロー現象は避けられない、逆流現象を

### (1) ストロー現象の懸念

東海北陸道の開通、北陸新幹線の開業という 2 段階で進む高速交通網の発展によって、富山県においていわゆるストロー現象が発生することは避けることができない。特に、第 3 次産業における購買力の流出は、最も懸念される事項である。首都圏・中京圏における商業・サービス業関連施設の充実は明らかに優っており、高速交通網インフラという”ストロー”により購買者の流動性が高まれば、魅力の高いほうへ吸われるように流れていくのは必至であり、”流れを止める”ことは難しい。また北陸地方においても、金沢のような都市へ大規模店舗が集中的に出店することにより、購買力流出がさらに加速すると予測される。さらには若者を筆頭とする人材の流出、首都圏・中京圏に本社を持つ富山駐在事務所の撤退など、さまざまな分野の経済活動でストロー現象が発生することが懸念される。

### (2) 逆流現象を起こすための強み

高速交通網という”ストロー”の流れは一方向ではなく、富山県の強みをさらに強化することで吸引力を高め、逆の流れを起こしていかなばならない。

本県は屈指の産業集積が形成された実業の県であり、高速交通網の発展は産業集積を高め、ビジネスチャンスを広げる絶好の機会にほかならない。交通網によりもたらされる優位性を最大限に活用し、企業立地をはじめ新規事業への進出と企業内起業、新産業の創出に取組み、産業活性化と意欲ある人材が活躍できる場を創っていくべきである。

また観光・居住面では、白銀の立山連峰の偉容を望み、四季折々に豊富な富山湾の恵みを味わえる自然の魅力は、都市圏では得ることができない癒しと生への深い感動を人々にもたらす。素材のよさを活用し、併せてその周辺に関わる「もてなしの心」を強化していくことで、いっそう多くの人々が訪れる環境を整備すべきである。

逆ストロー現象を起こすことを念頭に置いて、本県の強みである産業と自然の魅力さをさらに飛躍させることで、交流人口の増加、ひいては定住人口の増加が期待できる。

## ・産業集積を高める物流結節点機能の強化を

本県はものづくりを基幹産業として、それを取り囲むように、材料を納入する企業、完成品を販売する企業、生産設備を設置する企業等、多様な企業群が集積している。さらに、電力会社等のものづくりに必要なエネルギーや情報システムを供給する企業の本社が富山県に置かれており、その取引関連企業の富山駐在事務所も数多く集まっている。また、環日本海諸国にはBRICsの一角を占めるロシアと中国が存在し、日本にとって重要な交易国となっている。そのような状況下で、本県は環日本海諸国のゲートウェイとしての役割を、担うことのできる地の利を備えている。

海外の接点として、3港分の機能を果たす伏木富山港と、国際線定期便が就航する富山空港、そして国内へは、北陸自動車道を起点とする首都圏・関西圏、東海北陸自動車道による中京圏への高速道路ラインと東京・長野・金沢と結ぶ北陸新幹線の高速鉄道旅客ラインが、本県で結節しているのである。これは、日本海側でも大変恵まれた物流結節点といえる。

この物流結節点としての機能を強化することで物流周辺ビジネスが影響を受ける。物流に不可欠な輸送業をはじめ、倉庫業、商社、そして物流システムを提供するIT企業、さらには環日本海諸国との取引を一手に引き受けるワンストップ企業などの進出が期待できる。これらの企業がビジネスを展開していけば、伴って、環日本海諸国の外国人を含め、そこで働く人々の生活を支援する関連企業が必要となり、そちらの活性化も推進されることとなる。

もちろん既存の県内企業においては、物流結節機能を十分に活用することにより、国内はもとより環日本海諸国への事業拡大に伴う、これまで以上の発展が期待できる。さらに発展し企業内起業等により、余剰や適性を欠いていると見なされた労働者のために新たな雇用機会が創出できる。

加えて、これまでものづくりを支えてきた県民性も大きな強みである。ノーベル化学賞を受賞した田中耕一氏を生んだ、人間の力ではいかんともし難い摂理や不思議さに触れることができる環境は、まじめで粘り強い人材を育ててきた。しかしながら、高等教育を受けるため県外に出た人材は本県には戻らず、そのまま県外に生活の軸を置くことが多いのが現状で、先に述べた県内企業の発展は、都市圏で高度な高等教育を受けた人材をUターンさせることを可能にできる。

以上、目指したいビジョンの概略を示したが、以下にその実現に向けた具体

策を提案する。実現のためには、国・地方自治体の厳しい財政状況下において、さまざまな規制を乗り越え進めていかねばならないが、本県はじめ北陸地方の産業活力喚起のために、官民一丸となって前進していくことを強く要望する。

#### (1) 物流ターミナル拠点の整備と企業集積の強化

ロシア定期船航路を持つ数少ない日本海側拠点としても、躍進するロシア及び中国への、中部圏における日本海側の窓口を目指すべきであり、将来的には、首都圏・関西圏への一大物流拠点となることを目指したい。

まず、第一段階としては、伊勢湾港と伏木富山港を両輪で活用できる優位性を活かして本県産業のいっそうの発展をはかるべく、産業用地の整備と企業群の集積をはかる。その中において、環日本海諸国と国内三大都市圏との物流を担える、一大ターミナル拠点の整備をおこなう。

#### (2) 伏木富山港の港湾機能の強化

現在の富山県内港湾利用率は40%以下である。この理由としては、船の寄港回数が少ないことと、荷主から見て、太平洋側に内陸輸送を行ないスーパー中樞港湾を利用した場合よりも目的地までの所要日数が掛かってしまう現状による。これは、現状の日本海側航路が、寄港する船も1000-1500TEUクラスの船で、荷役量確保のため小樽・秋田・新潟・金沢など日本海側諸港を順に寄港したうえで、釜山でのトランシップ輸送となっているためである。

残念ながら、現状の集荷量から鑑みて、船の寄港回数が現在以上に増える状況には無い。ちなみに各港で積まれるのは自県内で生産された荷物が殆どであり、隣接県からの荷物は殆ど無い。いわば集荷のために横並びの家々を1軒ずつ順に訪ねているようなもので、非常に効率が悪い状況である。

環日本海諸国との交易量が増大する中で、中部圏における日本海側の集約拠点を形成することを目指し、荷主にとって他港湾に比較してどのようなメリットが出せるかの視点で大至急整備を進めていく事を要望する。荷主からの視点で状況を見る地道な努力が、集荷にとって極めて重要である。

#### 港湾設備の増強

増大する北東アジア地域のコンテナ物流量に対応した、大水深岸壁・コンテナ設備の増強など、貨物取扱量を倍近くにできる設備の整備が必要である。

#### 通関業務の24時間化などポートサービスの充実

現在、通関業務は平日朝8時～17時となっているが、荷受業者が24時間体制で受入から通関まで済ませられる体制を整える。このために利用者で

ある荷主と行政が一丸となり、早急に財務省との間で 24 時間の通関体制移行への仕組みづくりを開始していきたい。

#### 就航数の増便と航路の増設、直行便の運行

中国・ロシアをはじめとした環日本海諸国との取引増大を睨み、釜山・中国・ロシアまでの直行便を多数就航させ、定時性と速達性を確保した日本海側航路を敷設すべきである。

#### (3) 周辺アクセス道路の整備

物流基地の形成と同時に、港湾・高速道路・空港・鉄道を結ぶアクセス網の整備が急がれる。さらには県内 3 つの港湾をつなぐ連絡道路の整備、中京圏と結ぶ東海北陸自動車道の早期 4 車線化実現を求めたい。伏木富山港とスーパー中枢港湾である伊勢湾港を両腕に持ち、用途に応じてどちらでも使えるようになることは大きなアドバンテージである。多くの直行便航路と大規模な港湾設備を持ち、輸出面でリードタイム短縮に貢献する伊勢湾港を活用できることと、中京圏の企業と連携しての取引がいっそう増加することで、産業の競争力を高め、集積を進めることが可能となる。

また、アクセスとともに、富山を訪れる旅客にも配慮した富山空港・駅内の整備等にも注力する必要がある。

#### (4) 並行在来線を活用した物流サービスの展開と地域内交通の連携強化

新幹線の開業により地域へ経営分離される並行在来線は、従来の特急優先の束縛から解放され、地域のためのダイヤを組むことが可能となる。これを、物流面にも、地域交通の充実と都市活性化にも最大限に活用する。港湾からの Sea&Rail サービスを展開し、県内外を結ぶ貨物列車の運行にあてることも可能であり、県内各地の地域住民にとって最適化したダイヤ編成で列車を運行することも可能である。

港から山の裾野まで、県内を東西南北へ鉄路が網羅している県は稀である。万葉線、ライトレールの先鞭をつけ全国から注目される鉄道先進県富山として、駅、物流ターミナル、港湾、空港等と、中心市街地・郊外居住地を直結した、連携的で高効率な総合レールサービスの展開をいち早く進めていくべきである。

#### (5) 空港の活用

富山空港の強みは、全国の中で比較しても極めて市街地と高速道路から近い場所に立地しているというアクセス環境のよさである。富山市街地から僅か 15 分、県内各地からも高速道路を降りてすぐの場所に立地する優位性は他県にな

い貴重な資源であり、新幹線開業後も衰えない魅力である。さらに、新幹線駅と空港の良好なアクセス環境は長野経済圏との関係が強化できるので、レールによる空港までの直通ラインが必要である。

まずは現状の問題点を改善することが急務である。特に冬場の就航率の低さは致命的であり、早急に自動計器着陸装置(ILS)の設置を求めたい。今後は航空機の性能が向上し、自動化が益々図られると予想され、自動計器による離着陸に制限が設けられるような空港は、環日本海諸国のゲートウェイとしては引け目を感じる。

さらには、国際便増便と貨物便の運行を視野に入れた整備を検討されたい。また、航空貨物面から見ても現在の富山空港は2000mの滑走路であり、貨物便の離発着には最低500mの延伸を求めたい。

#### (6) 外国人にやさしい生活環境の整備

富山県においても環日本海諸国との取引によりグローバル化がいつそう伸展する中で、今後も各国から訪れる人々は増えていく。特に優れた能力を持つ外国人は産業集積の一翼を担うこととなるが、その人々が本県において安全で安心な生活をするために、言葉の壁や子女の教育機関等について、大都市圏に負けない高いレベルの支援体制を求めたい。また、文化や習慣の違いが無用なトラブルを産まないよう、地域社会生活における受入制度面での整備も、防犯体制と併せて必要である。

#### (7) 産学官連携による産業クラスターの推進と起業による雇用創出

企業・行政は大学等高等教育研究機関とより活発な連携を行うことで、県内外の優秀な人材が集う産業立県を目指す。とくに本県の強みは、大企業の立地もさることながら、高度な技術力をもった中小企業の集積が大きな資源であり、産業クラスターの形成により、県内に限らず広く全国から学生の定着を図っていききたい。

さらに、本県出身者はまじめで粘り強い気質を持っており、そのような人材を県外からUターン・Iターンで戻すためにも、県内企業の一層の飛躍と発展を望みたい。併せて、県内高等教育研究機関にはこれまで以上に知の集積が求められ、資質の高い学生を全国から、海外から集めることが求められる。

また、県内企業がいつその飛躍と発展を遂げることで、多くの企業内起業等に取り組むことができれば、従来分野での余剰人員や、職務適性に合わなかった人材が能力発揮を図るための受け皿としての役割を担うこともでき、ある面、厳しい自然に育まれた本県出身者の県外流出を防ぐことができる。

## ・自然の魅力を活かし、もてなしの心を

高速交通網と環日本海交易の進展によって「人」の行き交いがいっそう盛んになる。時間的障壁が解消され、多数の人が行き交うインフラが富山県に整備された際、「行ってみたい」「もう一度来たい」「ここに住みたい」と思う魅力を高めておかねば、来訪者にとっては何の興味もない通過点となってしまう、本県からは人が出て行くばかりという危機的事態になることは必至である。

当会では、平成16年に提言「富山の魅力の自覚と発信のために ~『何もなしちゃ』はもうやめて、遠慮なく自慢しよう~」を公表し、立山大使制度による富山の魅力のPR、「富山百科」の作成、富山の魅力再発見バスツアーの開催等、自分たちが住む富山の魅力をあらためて見つめなおしPRしていくことに継続的に取り組んできた。同様に県内各所において、行政、マスコミ、経済・文化等諸団体と県民が一体となって様々な取組みが行なわれている。昨年度はふるさと検定「越中富山ふるさとチャレンジ」が開催されたことをはじめ、当会でも「とやま昆布祭り」を開催するなど、いっそう機運が高まっている。

しかし一方で、まだまだ多くの県民が、本県の魅力に気づいていないことも確かである。全ての世代が郷土に愛着を持ち、誇りをもって遠慮なく自慢する風土を醸成することが必要である。

以上のことから、行き交う人が増えるチャンスを、訪れる人・住む人を増やす効果へ結実させていくために、以下の点を提案したい。

### (1) 自然の魅力を打ち出す

首都圏・中京圏にはないナチュラルレジャーの分野において、豊かな自然の魅力を堪能できる施設の充実が急務である。首都圏の釣りを例にとると、夜明け前に東京から何時間もかけて千葉や神奈川の釣り場に行き、たくさんの釣り糸が纏れそうな状態で楽しむくらいなら、朝一番の新幹線に乗って富山県でたっぷり釣りを楽しんでも、夕方には東京に戻り釣った魚を夕食で食べることができる。山歩きなども然りである。

併せて、新幹線駅からレジャー拠点へのアクセスを十分に備える必要がある。公共交通機関の路線整備をはじめ、タクシーの行き先別割引料金の設定や相乗り利用の推進などが求められる。



## (2) 感謝・感動を積極的に伝える

しばしば県外の来訪者から聞かれる指摘として、富山県の飲食店では接客時にもてなしの心が感じられない、ということが挙げられる。これは大変残念な誤解であり、もてなす気持ちがないのではなく、その思いを行動として表現する手段がわからないというのが実際のところであろう。県外の旅館等では、富山からの宿泊者は文句を言わないことで有名であるという。つまり、辛抱強い県民性が、サービスの場面においては愚直でぶっきらぼうな店主となり、県外に行けば何も言わない客となるのである。

店は客によって磨かれていくもので、客としてサービスを受ける際には、感謝・感動を積極的に伝えるようにしたい。もちろん苦情も変な我慢をせず伝えることが、もてなすことの本質を理解し、真のサービス向上へと繋がる道程となる。さらには、サービスを提供する側はもてなしの心を行動に表すためのマニュアル等の整備を提案したい。

## (3) お客の声を拾いサービスに還元する

関係団体や行政の先導により「もてなし強化月間」として県内一斉に各店舗やホテル、観光施設等に、お客の声を拾ってフィードバックする運動の推進を提案したい。各地でおこなわれている観光地スタンプラリーと同様に、指摘をあげてもらった内容に応じて、抽選で関連する名産品などをプレゼントすることで、富山県ファンをさらに増やす取り組みである。さらには、「いちばん笑顔のいい店主」など、具体的なサービス内容を表彰する仕組みを設けることで、一層もてなしの気運を高めることができる。

## (4) もてなし県民運動の実践

もてなし強化月間の一環として、県民全体にも運動実践を拡げることが望ましい。例えば、道に不慣れな旅行者の車が合流に困っていたら、笑顔でさっさと入れてあげるなど、一寸の優しい心遣いは、日常生活の中で誰もが気軽にできることである。このような「旅先で嬉しかった優しいもてなし」の事例を集め、県民に発表することで、実践運動に弾みをつけることができる。丁寧な言葉遣いや礼節はもちろん大切であるが、それらの根底にもてなしの心を広げていくことが肝要である。

## (5) 積極的に友人、家族を巻き込む

郷土への意識が高い人、魅力に気づいた人は、積極的に周囲の人をお気に入りの場所やお祭り会場、文化・芸術に親しむ場へ連れ出したり、一緒にふるさと検定にチャレンジして、どんどん魅力を広め伝える。

#### (6) 県外出身者の声を聞く

県外出身者の人たちは、ずっと住んでいる人にとってはごく当たり前で気づかない富山の魅力を存分に感じている。Uターンで帰ってくる人は、勉強熱心で郷土愛に意識が高い。これらの人々の褒め言葉や指摘に、素直な心で耳を傾ける。

#### (7) 新しい観光ルートをPRする

来訪者にとっては、例えば江戸や万葉の足跡を訪ねるのであれば、市町村・県といった行政区分は無関係であり、その時代の交流テーマで結ばれた広域圏に渡った観光ルートが望ましい。自らの地域内を深く紹介することに加えて、来訪者にとって感動がより深まるような広域ルートを寛容に設定していくことが大切である。

観光テーマといったソフト面での広域化の対応に加えて、ハード面でも、レジャー拠点への対応でも述べたが、広域観光ルートに対応した新幹線駅からのアクセスの充実が求められる。特に、黒部峡谷から黒部湖を経て室堂に到るコースについては早急に実現したい。

## ・おわりに

孟子は「天の時は地の利に如かず 地の利は人の和に如かず」(天のもたらす幸運は地勢の有利さには及ばない。地勢の有利さは人心の一致には及ばない。)と言を残している。富山県はまさに今、活況を呈する環日本海経済圏とそれら国内外を結ぶ東海北陸道の全線開通、北陸新幹線の開業という天の好機が訪れ、物流結節点としての地の利を備えるに至ろうとしている。国家施策によってもたらされる結節点機能を活用し、さらに、ものづくり産業の飛躍・発展を目指すとともに、県民自身が本県を変えていくことを強く自覚して、心をひとつに行動していくべき時期である。

ストローを、大都市に吸われる一方向的な流れとせず、富山を本拠地に住んでいる人、富山にビジネスで訪れる人、旅に訪れる人が大勢行き交うような逆ストロー現象を起こすために、本提言が助力となれば幸いである。

なお、「富山活性化委員会」は本提言を最後に、活動のほとんどを平成 19 年度新設された「新幹線等対策委員会」に委ねることとなる。これまで富山活性化委員会に関わっていただいた多くの方々に感謝すると共に、本提言の行く末を見守っていただければこの上ない喜びである。

## 富山活性化委員会 委員名簿

氏名	会社名	会社役職
委員長	牧田 和樹	(株)牧田組 代表取締役社長
副委員長	池田 安隆	(株)池田屋安兵衛商店 代表取締役
副委員長	北見 紀男	中小企業金融公庫 富山支店長
副委員長	林 武史	日本生命保険(相) 富山支社長
副委員長	藤田 寛	日本政策投資銀行 富山事務所長
副委員長	翠田 章男	(株)トンボ飲料 代表取締役社長
副委員長	水野 友勝	全日本空輸(株) 富山支店長
副委員長	宮本 次郎	(株)宮本工業所 代表取締役会長
副委員長	山本 毅	山本毅法律事務所 代表者
アドバイザー	榎田 敬次郎	(株)榎田酒造店 代表取締役会長
委員	浅野 公士	(株)チューリップテレビ 専務取締役
委員	綾田 景史	西日本電信電話(株) 富山支店長
委員	伊勢 彦信	イセ食品(株) 代表取締役会長
委員	市丸 正年	富山県信用組合 理事長
委員	稲積 欣治	(株)岡部 代表取締役社長
委員	井畑 滋	住友金属工業(株) 北陸支社長
委員	遠藤 忠正	富山交易(株) 取締役社長
委員	柿田 彰	北陸電力(株) 常務取締役
委員	鍛冶 他八郎	日本海建興(株) 代表取締役社長
委員	川口 義春	(株)サンセイ 代表取締役
委員	久郷 隆行	(株)大和 取締役富山店長
委員	蔵川 高義	(株)スカイシステム 代表取締役社長
委員	黒川 勲	(有)森本鉄工所 取締役社長
委員	小林 祐之	しのぶ歯科医院 院長
委員	合津 武雄	(株)名鉄トヤマホテル 代表取締役社長
委員	後藤 涉	大和証券(株) 富山支店長
委員	齊藤 隆教	北陸電機製造(株) 代表取締役社長
委員	櫻田 義一	(株)JTB中部 富山支店長
委員	瀬戸 徹	(株)瀬戸 代表取締役
委員	多賀 善治	(有)高芳 取締役社長
委員	高岸 和男	(有)タカギシ 代表取締役
委員	高桑 幸一	北電情報システムサービス(株) 代表取締役社長
委員	土田 洋	富山ターミナルビル(株) 代表取締役社長
委員	寺本 龍昭	(株)富士産工 代表取締役社長
委員	中込 政明	(株)日立製作所 北陸支社長
委員	中曾 修一	(株)新湊かまぼこ 代表取締役
委員	永井 正博	鈴木工業(株) 代表取締役社長
委員	永野 健司	日興コーディアル証券(株) 富山支店長
委員	並木 誠	北陸電力(株) 執行役員富山支店長
委員	野村 幸司	日本銀行富山事務所 事務所長
委員	法 貴文	三井物産(株) 北陸支店長
委員	八田 正人	(株)三和製作所 代表取締役社長
委員	東畑 伊太郎	(株)日本旅行TIS富山支店 支店長
委員	広世 亘	第一生命保険(相) 富山支社長
委員	増山 一雄	増山電業(株) 代表取締役
委員	森藤 正浩	正栄産業(株) 代表取締役
委員	安井 正春	大和ハウス工業(株) 富山支店長
委員	山口 和男	富士電機ホールディングス(株) 北陸地域代表
委員	吉枝 信夫	(株)エーエヌエーホテル富山 取締役総支配人
委員	吉野 公人	(株)ニュージャパントラベル 常務取締役
委員	吉野 弘人	北陸電気工事(株) 顧問
委員	米田 祐康	金剛薬品(株) 代表取締役社長

(会社役職名等は平成19年3月31日現在)